

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進本部本部員会議 議事要旨

1 日時

令和5年8月1日（火）10：35～11：10

2 場所

県庁6階特別会議室

3 出席者

配席のとおり

4 議事概要

<議題>

【1】岐阜県DX推進計画のフォローアップ

【2】アナログ規制の点検・見直し（案）

【大森副知事】

アナログ規制の点検・見直しについては、機械的に条件に該当するものは1度点検してみるという趣旨であるため、様々な項目が混在することを前提としてもらいたい。その上で、この機会に見直すことによって、県民サービスが向上する、あるいは効率化に資するものもあるため、しっかりと確認してもらいたい。

規定を改正するか運用で見直すかに関わらずデジタル技術を導入することによって、県民サービスが向上したり、効率化したり、精度や頻度が上がったりできるものも多くあると思うので、前向きな姿勢で引き続き検討してもらいたい。なお、「現状維持」と整理したものは、“既にデジタル技術を活用できているもの”（約8割）と“アナログで現状維持するもの”（約2割）を、最終的には区分して整理した方が良い。

また、DX推進計画のフォローアップについては、初年度の実績としてよく整理されていると思う。ただし、例えば成果指標64の「ICTプラットフォームを運用する県立高等学校、県立特別支援学校」などは、達成状況が◎とされているが、学校現場は実際どう良くなったかということも大切である。成果指標41の「障がい福祉ロボット導入件数」では、夜間の見回りの頻度が下がって効率化したとの現場の声が紹介されていたように、県民サービスの向上や我々の業務の効率化などといったところに着目した整理をお願いしたい。

【デジタル推進局長】

アナログ規制の点検・見直しについては、今後まとめ方を整理していきたい。

また、DX推進計画のフォローアップについても、デジタル技術の導入状況だけではなく、その成果も示していきたい。

<報告>

○県庁舎移転を契機とした業務改善（情報システム関係）

【大森副知事】

（カラー印刷が増加しているという説明について）印刷を設定する際に、初期設定は白黒印刷なのかカラー印刷なのか。

【デジタル推進局長】

個人のパソコンで印刷する際は、白黒印刷が優先されている。

【大森副知事】

以前のようにカラー印刷できるプリンターを限定するなど制限をかけてはどうか。

【デジタル推進局長】

技術的に可能か検討する。

<総括コメント>

【古田知事】

2022年4月より、全庁的、全県的にDX化を促進する司令塔としてデジタル推進局がスタートしており、今日の発表は初年度の実績評価ということだと思う。司令塔として幅広く頑張ってもらった。

ここからは今年度の話になるが、デジタル化・DXについてはいくつかトピックスがでてきた。

1つ目は、生成AI技術の劇的な進展である。社会を変革させる可能性のある新技術として活用論議が盛んである一方で、正確性、信頼性、セキュリティ等の課題がある。庁内で連絡会議を立ち上げて、県庁として生成AI技術をどう使っていくか情報共有と検討を進めている。

もう1つは、渦中にあるマイナンバー、マイナンバーカードを巡る課題である。様々な不適切な取扱い事案がでてきており、諸々点検しているところ。まさに、デジタル化のプロセスのなかで起きている出来事と捉えている。デジタル化について県民の信頼を得ないといけない。その「慎重かつ丁寧に」ということと、一方で更なるスピード感が必要ということ。慎重かつ丁寧に県民、国民の信頼を得ていくため二律背反的な命題がある。また、場合によってはデジタルとアナログを併用しながら、経過的にやっていかざるを得ない場合もでてくる。しばしば言われる、デジタル化にあたってのヒューマンエラーを意識し、それによる信頼低下をどう立て直していくか。こうした今日的な課題を含めて、デジタル推進局を中心によく議論してもらいたい。

各分野での活用展開の方針などの報告があったが、基本的にはデジタル化はメリットがある。何のためのデジタル化か、どういうメリットがあるのかというこ

とを我々だけでなく県民にも実感してもらおうということが大事である。様々な行政手続のオンライン化や、福祉施設へのICT導入、教育のデジタル化など、大いに進めながら意義、メリットをどんどんアピールしていく。アピールしていくという面では、既に開催したがシンポジウムや発表会で、県内各地で工夫がこらされている様々な事例を表に出していくことが必要である。

アナログ規制についても、一斉に点検・見直すということだが、間違いなく利便性向上につながるというものであれば、優先度をもって取り組み、一つ一つ実績を上げていくという姿勢が大事である。

先日の全国知事会で専門家のプレゼンがあったが、その際に「デジタルデザイン」という言葉がしきりに使われていた。まさにデジタル化が目的ではなくて、何をどうデザインして何のためにやるのかというデザインこそが大事であるということであった。本県のデジタル推進局も県民の「豊かさ」、「安心」、「便利」を実現するという目的を掲げているが、その目的を絶えず見失うことなく進めていくこと。